

1 主題

一人一人のよさを生かし、生きるちからをはぐくむ小・中連携研修

2 主題設定の理由

変化の激しい社会をこれから担っていく子どもたちに必要な「生きる力」を育むため、確かな学力、健やかな心と体の育成が学校教育に求められている。学校教育の現場でも様々な変革が求められる中、同地域に生活する児童・生徒の健全育成や学力向上、及び児童・生徒に寄り添う教育を目指し、小・中学校間での情報交換をしながら各校の特性を生かした実践や提言を共有することが有意義であると考え、主題を設定した。

3 研究の視点

- | | |
|----------|--------------------------|
| A 学習指導 | 基礎・基本の習得を目指し、特性に応じた指導の工夫 |
| B 生徒指導 | 情報交換及び組織的な生徒指導の在り方 |
| C 特別支援教育 | 支援の必要な児童・生徒に対する手立て |
| D 小・中の接続 | 情報交換及び円滑な接続のための手立て |

4 研究の実際

(1) 研修の流れ

- | | |
|-------------|--|
| 4月20日 | 3校担当者会(鴨池小学校) |
| 4月21日～5月31日 | 各視点についての課題及び取り組みを各校で話し合い、資料作成 |
| 6月23日 | 小・中連携研修会(鴨池小学校) <ul style="list-style-type: none">○ 授業参観○ 分科会○ 全体会 |
| 6月26日～7月20日 | 各校・分科会でのまとめを作成 |
| 7月30日 | 完成したまとめを各校に配布、2学期以降共通実践事項について実践 |

(2) 研修会当日のまとめ

○ 授業参観

特別支援学級を含め21学級での授業を授業参観として提供。以下のような感想・反省が上げられた。

- ・ 小学校の授業の様子を見られるよい機会となった(同意見多数)。
- ・ 外国語は中郡小の先生もTTとして参加する授業を行っていてとても参考になった。
- ・ 小学校ではタブレットを使いこなして授業を行っていた。中学校でも活用していきたい。
- ・ 普段見ることのできない小学校での授業や、小学校の先生方の指導の様子を見ることができ、中学生になったばかりの1年生への声かけの仕方や接し方などを考える良い機会となった。
- ・ 小学校ではできていることが中学校ではできていないこともあると感じた。

○ 分科会（課題と共通実践事項）

分科会	課題	共通実践事項
学習指導	・積み残しが多い。個人差が大きい。 ・中学校につながるテスト勉強の在り方	・中学校のテスト期間に合わせて、ノーメディアデーを設定する。読書時間や家族との時間を増やしてはどうか。
生徒指導	・不登校や別室登校の子が多い。 ・保護者対応に難しさを感じている。	・2分前着席、1分前黙想を6年生から始める（係が前に立ち、声をかける。「起立」「礼」「お願いします」）他学年は実態に応じて進めていく。
特別支援教育	・学年会と支援部会の時間が重なっているの で、できるだけ学年会にも参加できるよう時間を調整する。	・校区の体験入学説明会を5年生から実施する（7月）。 合同学習会は11月に実施。子どもたちも他校の友だちに会えることを楽しみにしている。
小中の接続	・中1ギャップ解消のために情報共有をしっかりと行いたい。	・電話での相談、授業の乗り入れなど積極的に行う（自由記述欄参照）。スズキ校務を使ったデータの引き継ぎを進める。

分科会の反省

- ・出張等の関係で生徒指導主任が部会におらず、話し合いを進めにくい面があった。
- ・小中接続分科会の中で養護教諭部会を行うことができた。様々な情報交換ができたことで各校で改善できることを見つけることができて大変良かった。
- ・これからも研修会のみに限らず、もっと情報共有をしたほうが課題解決につながるという話になった。
- ・学校公開日なども活用し、中学校での体験授業や中学校の先生が来校しての授業や授業参観ができるとうい。

○ 全体会

- ・指導講話で、小中連携のヒントを詳しく教えていただき、良かった。
- ・分科会で一緒にならなかった他校の先生との交流の時間があるとよかった。
- ・全体で共通して取り組むことをまとめて、どこかに掲示しておこうと思う。

5 次年度への引継ぎ

- ・令和6年度の担当校は中郡小学校となる。
- ・分科会で決まった共通実践事項は、各部会が中心となって実際に実践につなげていく。
- ・年に一度の研修にとどまらず、年間を通して、小・中連携の取り組みを図れるようにする。